



発行所 郡 公民館
 西蒲原 郡 公民館
 卷町 郡 公民館
 保 郡 公民館
 印刷所 北洋印刷株式会社
 (西蒲原 郡 電話204番)

独立公民館 買収の経過について

社会教育法に基いて巻町に公民館が設置されたから三年余になり、すが、館長さんをはじめ関係者の熱意と、町民皆さんの理解で初期の目的である住民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興などの一つ／＼が漸く軌道に乗ってきた。今日町民が熱望するのは、気安に出入が出来、気軽に集会的出来る独立公民館が欲しいことであつたと思ひます。こんな要望のある時、郡の組織組合事務所を巻町へなら譲渡してもよいよな話があり、運営審議委員会で協議の結果、環境、位置とも申分ないし、是非買収して頂くより理事者と議会へお願いしたのであります。

併しこれも現在の町財政の苦しい状態からみて簡単にいいたいと買収出来ないのは当然で、理事者、議会とも慎重な態度で臨み、議会では財務及文教委員会に附託して今後の運営、買収価格その他の検討を一任したのであります。委員会ではいろいろな角度から審議した結果、維持管理の経費は出来る限り節約することを条件に買収の結論が出たのであります。価格は土地、建物、什器、備品の一切で五十七万円とし代金の支払は今年中に三分の一、来年七月と十二月の二回にその残額を支払うことに決定し、その間組織組合同も接衝して了解を得たのであります。更に最近新築足した協

同組合巻町商工会の要望もありこの事務所を併置して経費の幾分かを負担して頂くことなども条件の一つとして全員協議会の承認を得た次第であります。この決定までには組織組合理事長竹内さんの誠意ある御配慮で買収の内契約にまで進んだことを感謝いたします。独立公民館買収の経過は以上の通りであります。がこの際特に町民の皆様は切望したいのは公民館活動は決して娯樂的な催しだけのものではないに、地方文化の向上や土地の産業振興のために最高度にこれを利用して社会福祉の増進に寄与する最終の目的を果すことにあるので、随つてこの運営も民主的でないければなら

ない管であり、最後に事務所を公民館に併置される商工会にお願ひしたいのは凡ゆる障害を乗り越えて一日も早く金融部門を設置され、商工業の育成に特段の努力を払われ

ることが当局の支援に應える唯一の事柄であり、商工業発展に資々と業績を挙げられれば更に町当局も議会も全般的の支援を惜しまないことを確信するものであります。(土田)

町議会だより

十月一日 議員協議会
 出席二十六名
 一、議会閉会中における財務警察、消防、厚生水道、文教、土木、庶民住宅の各委員より審議の経過について詳細なる報告があった
 二、停電について議会の希望を電気会社へ傳達することに決定した
 十月一日 町議会
 出席二十六名
 一、巻町収入役の選任について
 前収入役 星井三一郎氏、満場一致を以て再選された
 二、起債専決処分報告について
 公營住宅建設費の起債、専決処分を承認した
 十月二日 議員協議会
 出席二十二名

十月六日 議員協議会
 出席二十五名
 一、山添議員永年勤績功績顯著なるを以て、縣町村議長会より表彰せられたるにより、証書の傳達式を行った
 二、議会閉会中開会の産業、土木、厚生水道の各委員長より報告があった
 三、組織組合の建物買収について交渉の結果について報告があった
 四、常任委員会は改組に決定し、入選は議長、副議長に一任することとす
 十月六日 町議会
 出席二十五名
 一、巻町職員に対する寒冷地手当支給に関する條例の設定について議決
 二、巻町職員の分限に關する手續及効果に關する條例の設定について議決
 三、巻町職員の懲戒の手續及効果に關する條例を設定した
 四、警察の用に供する財産の譲渡に關する條例を設定した
 五、新潟縣消防防團員、公務員災害補償組合加入に決定した
 六、常任委員の選任替と委員長の選任について左の如く決定した
 ① 財務委員
 ○は委員長
 ○山添清一郎 大原政治 小林清策 福田幸作 水倉庄松 井澤一二 崎二 幸田久作
 ② 文教委員
 ○土田藤孫子 池上爲五郎 伊藤正 笹川龜松 村松次
 一 八木澤菊藏 齋藤作次 幸田久作
 ③ 土木委員
 ○八木澤菊藏 福田幸作 小林太藏 土田藤孫子 安川政次郎 井澤一二 星井豊作 中野文作
 ④ 厚生委員
 ○安川政次郎 吉川吉輔 大原政治 白崎一二 玉木鹿藏 星井豊作 吉田和吉 齋藤文秀
 ⑤ 消防委員
 ○小林太藏 久保田一 小林清策 玉木鹿藏 久保田梅治 吉田和吉 水倉庄松 中野文作
 ⑥ 産業委員
 ○久保田一 吉川吉輔 池上爲五郎 伊藤正 山添清一郎 久保田梅治 笹川龜松 村松次
 一 二面七段へ続く

▲本欄を「麥の実」と名付けた意図がどこにあるのかは知らぬが、巻町地積の鑿郷が鑿の湖の別名と呼ばれ、それを雅号にして巻町に縁りがある事を表徴した人もある。免に角背から鑿郷には鑿が叢生していたため鑿の湖と名付けたことはたしかである。▲鑿の実の少し未熟(やぎ)のものをかけ干しにし煎じて常用すると胃がんに罹らぬといわれている。進歩した醫學からは笑われるだろうが筆者は時々これを香茶代りに用いている。▲薛林による「種子は白くして食用に供せらる」とあるが、ゆでた種子は栗に似て栗とは異つた淡白な獨特の美味しさがあつる、生の儘の一二つは又格別の珍味である。外皮は女性的で繊細な栗のいがと比べたら男性的な鋭角がある。▲將來この欄がいつまで續くか解らぬが巻町を表徴し、鋭さの中に美味しさがあつて煎じて呑めば「がん」の予防にも役立つとすればこの夢の実を書く人も読む人も、みんなどこかれを生長させ町の発展に寄与させたいものである。

學校給食のことについて

久保 幸作 (三區)

理由 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 三島 亥咲(六區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 丸山勘一郎(一區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 山岸 隆子(三區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 山岸 隆子(三區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 山岸 隆子(三區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 山岸 隆子(三區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。



時間厳守 集會

一、文教委員会 (十月十九日) 五分(午後一時一十分) 公民館(公民館) 二、町民運動会組合(十月二十日) 二〇分(午後七時一十分) 公民館(公民館) 三、婦人講話 (十月二十七日) 五〇分(午後一時一十分) 公民館(公民館) 四、公民館運営審議会 (十月二十九日) 一五分(午後一時一十分) 公民館(公民館)

「団体からの」 公民館 敬老会開催

十一月二十三日勤務感謝の日午後一時より小学校に於て当町在住の數年七十五才(明治十年生)以上の方々をお招きして、細かでありながら、婦人会、みのり会の協力により敬老会を開催する。

「団体からの」 公民館 敬老会開催

十一月二十三日勤務感謝の日午後一時より小学校に於て当町在住の數年七十五才(明治十年生)以上の方々をお招きして、細かでありながら、婦人会、みのり会の協力により敬老会を開催する。

「団体からの」 公民館 敬老会開催

十一月二十三日勤務感謝の日午後一時より小学校に於て当町在住の數年七十五才(明治十年生)以上の方々をお招きして、細かでありながら、婦人会、みのり会の協力により敬老会を開催する。

「団体からの」 公民館 敬老会開催

十一月二十三日勤務感謝の日午後一時より小学校に於て当町在住の數年七十五才(明治十年生)以上の方々をお招きして、細かでありながら、婦人会、みのり会の協力により敬老会を開催する。

「団体からの」 公民館 敬老会開催

十一月二十三日勤務感謝の日午後一時より小学校に於て当町在住の數年七十五才(明治十年生)以上の方々をお招きして、細かでありながら、婦人会、みのり会の協力により敬老会を開催する。

「団体からの」 公民館 敬老会開催

十一月二十三日勤務感謝の日午後一時より小学校に於て当町在住の數年七十五才(明治十年生)以上の方々をお招きして、細かでありながら、婦人会、みのり会の協力により敬老会を開催する。

「団体からの」 公民館 敬老会開催

十一月二十三日勤務感謝の日午後一時より小学校に於て当町在住の數年七十五才(明治十年生)以上の方々をお招きして、細かでありながら、婦人会、みのり会の協力により敬老会を開催する。

「団体からの」 公民館 敬老会開催

十一月二十三日勤務感謝の日午後一時より小学校に於て当町在住の數年七十五才(明治十年生)以上の方々をお招きして、細かでありながら、婦人会、みのり会の協力により敬老会を開催する。

「団体からの」 公民館 敬老会開催

十一月二十三日勤務感謝の日午後一時より小学校に於て当町在住の數年七十五才(明治十年生)以上の方々をお招きして、細かでありながら、婦人会、みのり会の協力により敬老会を開催する。

理由 學童の体位の向上偏食の矯正に貢献した現在までの実績に鑑み、學校教育の一部をなして繼續させたい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

理由 達山 幸男(七區) 一、學校給食を是非続けるべきか。二、中止した方がよい。

昭和26年第13回巻町民運動会採点表

Table with columns for gender (男子/女子), age group (予男/予女), and various sports events (種目) with corresponding scores (採点).

農家だより

栽培技術及耕種法を廣く農家に普及し、更に農産物の増産意識の昂揚を基礎として巻町農協同組合では修農会みりの会の後援を得て十一月六日、七日兩日に一月六日、七日兩日に一月六日、七日兩日に...

アメリカ雑感

大鳥 秀一

自家用車をブツク、ス
トアに乗り入れて車か
ら降りることなしに雑
誌が買えるアメリカな
のだから、着陸の第一
印象は恐らく誰もが感
じるであろうが、それ
は全く語るに多すぎる
ことばかりで溢れてい
る。

先づ表面的には施設に
於ける種々の刷新しさ
だが、それらは渡米さ
れた方々によつて既に
日本に伝えられていま
から改めて説明するま
でもないが、いづれに
せよ二十世紀の先端を
行く世界一を誇る大國
家に乗入れられたとい
う感激は予想を超えた
ものがあつた。

アメリカに來て實際
に見聞することから
半びとすることは單に
素晴らしいというこ
とばかりでない。日
本の貧困さを対象的
にまざと見せつけら
れ、「文化國家日本」
という小さな島國で
ある母國をいかに進
展させたらよいかと
いう何か焦燥の念に
驅られるこの氣持、
これこそ日本にいる
だけでは得がたいも
のだと思ふ。

覺とは全くかけ離れた
もので似然と一つ一つ
がその躍動する生命力
を持つてゐるのだ。未
だ細部に亘つて見聞せ
ざるアメリカという
『人柄』の大きつばな
第一印象は以上よう
なものである。

名札のことも

巻中訓育部

人或はいう。名札を胸
につけるは生徒ははづ
かしがるのではないか
と、勿論始めのうち
はづかしいかもしれな
い私塾教師で若いもの
は相当学生時代名札を
つけたからそれはわか
る。だが自分の名前を
胸につけるをはずかし
がることは無用の感情
である。

人或許はいう。名札を胸
につけるは生徒ははづ
かしがるのではないか
と、勿論始めのうち
はづかしいかもしれな
い私塾教師で若いもの
は相当学生時代名札を
つけたからそれはわか
る。だが自分の名前を
胸につけるをはずかし
がることは無用の感情
である。

うと社会の人はつけ
ないのだからとうとい
ものがいる。
正にこのようなことを
いう生徒こそ眞先に
けてもらわねばならな
い頭の持ち主である。
生徒は保護されるべき
ものであり、大人によ
つて善導されべき存在
であり、それぞれに分
かると、自分自身であ
る。自分は自分であ
つて他の何者でもなく
しかもそれぞれの分を
わきまいて行動するよ
うに望みたい。名札を
つけるそもその動機
は全國的な青少年不良

化の傾きがこの善良な
巻中學校生徒に及ぶこ
とを未然に防ぎたいと
いうのであつたがこの
名札こそ生徒を立派に
成長させる最高とはい
い得ざるもそれに近い
ものと考えようにな
つた。町の人に特に父
兄の方々に御願いま
すが名札はただかざり
や先生の便利のため
あるのではないといふ
ことをよく考えられて
生徒君の名札に目を向
けられることを切に望
むものであります。
(先号よりの續き)

館柳湾先生之伝

【抜書・聞書・覚書】

竹下 榮

先生名は機字は樞柳柳
灣又石香齋と号す。通
稱は雄次郎寶曆十二年
(A.D.一七六二)三月
十一日蒲原郡新瀧に生
る。父は安兵衛(巻町
館安左衛門の第二子な
り、新瀧小山右衛門
に子とし養わる)母は
小山氏先生故あり巻町
館源右衛門の准弟とな
り館氏を稱す。天保十
五年(弘化元年A.D.
一八四四)四月十三日
江戸目白台の私邸に歿
せり。享年八十三。牛籠
源寺に葬る。先生安永

中召されて幕吏となり
文化九年致仕す人と爲
温雅優靜恬淡にして言
寡なし、学殖富瞻最も
詩書に長じ、兼て和
歌を好めり、多年地方
に歴任し頗る活潑あり
吏民の敬愛する所と爲
る致仕の後諸侯間々招
聘すれども皆辞して就
ず吟詠自適悠年を終
七十余に及び予め自
ら其の墓碑に題して柳
灣詩老館樞柳堂とい
著す所。柳灣漁唱四卷
柳灣余唱一卷、浮瑛一
卷、剛定三体詩三卷、
杜樊絶句注、その他

晩秋抄

桐挽けば桐のいのちの温さあり
街を出て列車の左右すぐ枯れる
朝寒のベタル踏み来る酈乳夫
待つ君や常ならゆかぬ夜の時雨
枯木最も夕日の落つる時淋し
姉の言葉に服す外なし銀杏落つ
風通しよければ大根の干場とす
梨むくや手に夜の冷を覺えけり
長い／＼貨車朝寒の野を展ぐ
枯木立馬車から／＼と村を切る

一雨
鳳雨
素月
碧伸
福峰

圖書の利用について

林園月令數十卷、蠶經
詳説、授時圖、授時圖
略解、山村充糧志、等
あり以て實業を勸め荒
年に供う以て先生が尋
常経史を囀るの儒流と
科を異にせるを知るべ
し、漁唱三卷、林園月
令以下刻して世に行わ
る余は皆家に蔵す子あ
り、名は俊、字は昆陽
靈筋と号す。亦乃父の
識あり丹青を善し、菊
地容齋の門に學ぶ性草
聲不羈小節を修めす故
を以て毀譽交臻る官に
在志ざしを得ず遂に任
を辞して専ら繪事を力
む、頗る名聲あり。
附記しこれは明治二十
五年発行の『越之海』
第三輯から寫したもので
す。(巻神社久我家
藏) 竹下榮氏は角海屋
の方で代書を業とされ
大正のはじめ頃亡く

ひと雨ひと雨山の秋も
色あせて流れる雲にも
静かな冬の氣配を感じ
る。深み行く秋を惜む
かの如く繰り廣げられ
た文化まつりも終り、
落ちついた秋の一日何
かのひまに頼る。読物
をお薦めしたい。
森岡外作 高瀬舟
志賀直哉作 眞鶴、雨
蛙、焚火、老人
これらの圖書は気軽に
に読めむづかしく考え
る事もなく又短い小説
であり三十分で読め
ます。いろいろな雑事

あとがき

仕事に追われておりま
してもお互に心のゆと
りを持ちたいものであ
る。
皆様の図書室として毎
週水曜日、日曜日の夜
開館いたしております
巻町文庫を御利用下さ
るよう係ではお待ち
たしております。
あとも
深み行く文化の秋に浦
日練り展げられた巻町
恒例の文化まつりも十
七日の演劇発表会を最
後にその幕を閉じた。
結果についてはいろいろ
御批判もありましたよ
うが、終始その態度に
眞剣さの溢れていたこ
とはたしかだ。
二十三日午後一時よ
り巻小學校に於て七
十五才以上の方々を
お招きして敬老会を
開催しました。若い
時代のために一杯働か
家のため一杯働か
れ、静かに老境に入
られた御老人の方々
を皆んなで守り、温
い思いやりが町全体
に漲る時明るい平和
な巻町が打樹てられ
るでありますよう。
火事は忘れた頃そつと
忍びよる。向寒の折お
互の一寸した注意より
あの恐ろしい火事を防
ごう。

- 41 西川口切取拂裏書 寫本 赤サビ 棚辺寅藏
- 42 皇国地誌(赤サビ村の項) 寫本 " "
- 43 卷村事務留帳 卷町 笛木又平
- 44 越後往來 卷町 白崎一二
- 45 銀板寫真 卷町 上原六郎
- 46 西沼底樋用材 堀山 三島吉郎
- 47 鑑札二枚 明治十六年 卷町 佐藤與吉 河治忠
- 48 卷社規則 明治十六年 卷町 吉川嘉兵衛
- 49 氏子札三枚 " " "
- 50 明治二十年卷小学校記念寫真 " " "
- 51 明治二十七年卷小学校同窓會寫真 " " "
- 52 蒲原電鉄請願書 寫本 卷町 江端一郎
- 53 町史稿本 冊 卷町 卷小学校
- 54 シュロ雪帽子 卷町 正念寺
- 以下參考文獻、新潟縣に於ける石器時代遺跡調査報告、西蒲原志年表
 越後名寄、西蒲原郡紹介記、西蒲原郡案内、温古の栞合本、改正越後国
 全圖、北越名流遺芳、新潟縣小地誌、越佐歴史談、新町村名簿、越後古
 代史の研究、越佐地名考、国史年代圖——新潟縣郷土史入——、東遊記
 南船北馬、公裁問答的例三冊、西蒲原郡神祇志、西蒲原郡誌、西蒲原寺
 院佛閣誌、西蒲原郡志補遺、峰岡藩史料、長岡藩史要、岩室村誌、岩室
 弥彦神社、越佐こども風土記、新潟縣郷土誌料綜合目錄、海国兵談、
 蘭学階梯。

昭和二十六年十二月五日。六日

郷土史料展出品目録

卷町公民館

40	木製糶摺白	江戸時代	赤サビ	棚辺寅藏
39	卷村中手檢見帳	安政四年		卷町公民館
38	花嫁髪飾一式		卷町	上原六郎
37	檢見櫛		中郷屋	笛木守之
36	割地クジ名札	十枚		''
35	土地關係文書	九冊		''
34	赤サビ村御用留	嘉永五年 他四冊	赤サビ	猪俣太三郎
33	三根山藩主より拜領煙草盆一对		卷町	田辺田久治
32	三根山藩制札			
31	宗旨請狀	文政二年 二通	卷町	正念寺
30	延命地藏尊緣起	寫本	卷町	佐藤吉之助
29	壺		卷町	内藤亀次
28	五箇・角海土地争文書・地圖	延宝三年		
27	宗旨請狀	延宝九年 他九通		
26	古瀬戸瓶子	鎌倉期 (馬堀下開サク時の出土品)	布日	藤田次郎平
25	上杉謙信公肖像			
24	上杉檢地帳	慶長五年		卷小學校
23	能面	二面		長島新二郎
22	長岡城の面影(上下)			''
21	御本山並御国法覺帳			''
20	'' 水戸家	''		''
19	'' 靈鑑寺宮	''		''
18	拜領 醍醐三寶院通用荷札			''
17	牧野駿河守、越後高田城受取の行列帳			''
16	長岡牧野家拜領「木盃」「桃形不置盃」			''
15	上杉家拜領「春日盃」			''
14	上杉家仁科越中之振旗、同陣中通用手形			''
13	上杉家軍揚旗「黒地日之丸」「毘」			''
12	不動明王像			''
11	桂大納言源經信公筆			''
10	八僊舞面		卷	神社
9	金泉寺経塚出土品		竹之町	金泉寺
8	正觀音像 (白鳳期)		赤サビ	遍照寺
7	大壺 (傳岩室出土品)			
6	''		卷町	上原甲子郎
5	祝部土器		卷町	内藤直木
4	''		峰岡	内藤富
3	石器			''
2	''		卷町	上原甲子郎
1	繩文土器	一括	卷町	内藤直木